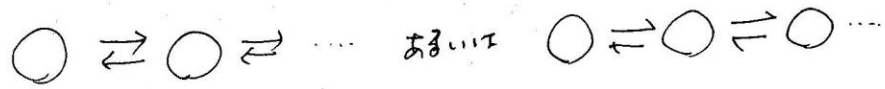


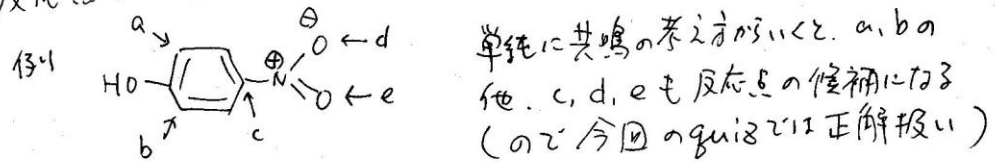
散見された例

1) $\bigcirc \leftrightarrow \bigcirc \leftrightarrow \dots$ の代わりに



と書いたもの。これは上の式が共鳴構造7つに対して、下の式は平衡7を表すもので、有機化学ではこれを別なものと扱うので、厳密にはXとなる。(下の2つの式は同じ意味であり、どちらでも可)

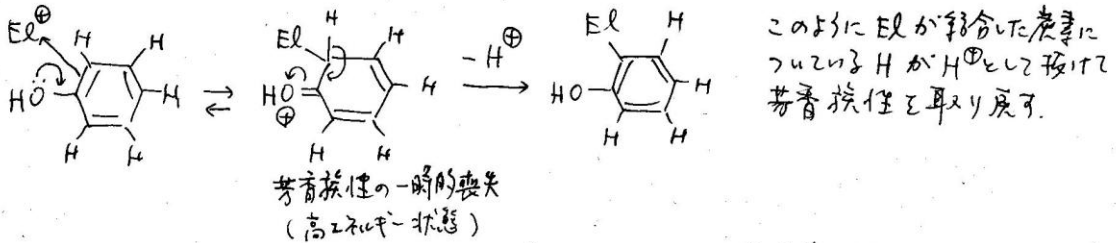
2) 反応点として置換基の結合した炭素や置換基上の原子を示したもの



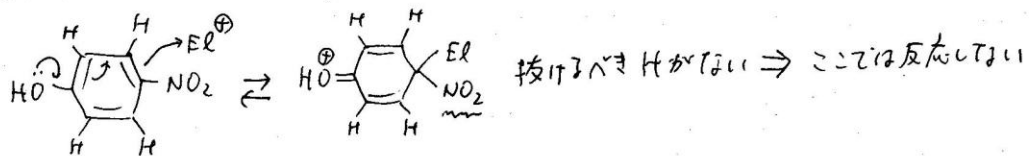
しかし、実際には反応点はa, bのみである。

理由は以下。

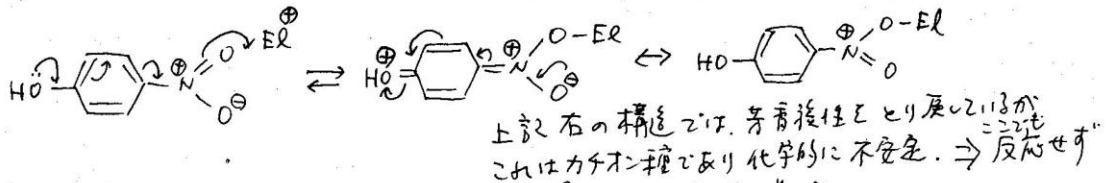
実際の反応例



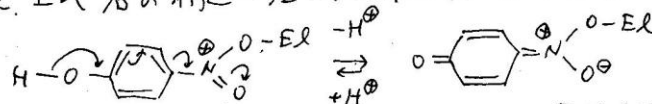
上記はOHのo位だが、p位でも同様。ただしp位に置換基があると



ニトロ基のOだと



仮に、上記右の構造の左端のHがH+としてはずれる場合。



右側は中性分であり、しかも確かに環状6π系ではあるもののそのフタがリソは通常のベンゼン環に比べて弱く、芳香族安定化エネルギーがあまり出ない。